

平成25年度 評価結果報告

フィードバックレポート

『小平市立障害者福祉センター』

障害児通所支援（旧児童デイサービス）

NPO法人福祉経営ネットワーク

# I. 全体の講評

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	開かれた事業所を目指し、会議室等の地域への開放、支援相談事業、巡回相談事業など、機能や専門性を地域に還元している
	内容	地域に開かれたセンターを目指して、地域住民や各種団体の交流の場として「センターまつり」「暮らしのちょっとちょっと講座」の実施と会議室等を障がい者団体や地域住民に開放している。また、専門性を活かした活動として、言葉に関する相談・訓練を行う言語相談事業、子どもの成長や言葉に関する相談支援事業を行っている。そのほか、保育園・幼稚園に言語聴覚士を派遣し、気になる子どもについて、保育士・保護者に助言指導する巡回相談事業など地域の子育てに貢献している。
2	タイトル	年2回の保護者面談と定期的な評価に基づき個別支援計画を作成している
	内容	事業所では年2回保護者と面談の機会を作り、そこで通園時の子どもの様子を伝えるとともに保護者の意向・要望を聞き、個別支援計画への反映を図っている。子どもの状況は、担当職員によって月間目標と併せて「児童票」へ月ごとに集約されており、それを踏まえ年3回に時期を分けて評価と課題を導き出すしくみが構築されている。個別支援計画書は、それら保護者の意向や定期的な評価に基づき、前期・後期の年2回ケース会議において検討、作成されるしくみとなっており、子どもの発達状況に応じた支援がタイムリーに提供できるよう努めている。
3	タイトル	専門職と連携し子ども一人ひとりの発達や状況に沿った療育を実践している
	内容	事業所は、子どもの能力の発達を細かく多様な角度から、個別や小グループ、集団活動の中で個々に応じた療育を行うことを掲げている。作業療法士による機能訓練、言語聴覚士による言語訓練の他、入園2年目以降の子どもを対象とした音楽療法士による音楽活動のプログラムを導入している。これらの専門職との連携によって療育を行っており、保護者には月目標に沿った活動内容を伝えるとともに、専門職からのアドバイスを得ながら療育を行い、就学前には就学後の生活を踏まえて準備をすすめている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員の能力向上を図るための個人別育成計画の策定と実施に期待したい
	内容	新任研修、中堅職員対象の中核人材育成研修・指導職チャレンジ研修、指導的職員研修等階層別研修を法人内研修として、該当者を対象に実施している他、研修参加後は、研修台帳に個人別研修歴を記録している。目標管理制度を導入し、能力向上でどのように利用者に還元したいか等、希望を聞いているものの、職員の希望と事業所として求める能力に基づいた、個人別の育成計画の策定までは至っていない。事業所として、人材育成計画の必要性を認識しているため、今後の取り組みに期待したい。
2	タイトル	利用対象としている子どもの特性をさらに反映した、具体的な行動規範の作成が望まれる
	内容	「小平市立障害者福祉施設職員倫理綱領」は職員会議等によって職員周知を図るとともに1階ロビーにも掲示し、利用者等へ支援の基本姿勢を伝えるよう努めている。またセンターとして「行動規範」があり、人権の尊重等項目別に「具体的な行動規範」を示している。今後は、職員が支援を行う際に意識したり、自らの支援を振り返る等、有効に活用するためには、事業所が利用対象としている子どもの特性をさらに反映し、具体的な行動レベルまで明確に示した規範の作成が望まれる。
3	タイトル	職員が基本理念を共有し、療育及び支援技術の向上に向けたさらなる取り組みが期待される
	内容	「あすの子園」の療育目標を掲げて、専門職とも連携を図り個々の子どもの状況や特性に応じた療育が行われている。センターの理念の一つには「人権の尊重」を掲げ、利用者一人ひとりの人権を尊重することを支援の基本とし、不当な虐待や差別、不利益を受けることがないよう権利を擁護することが明記されている。日々の療育は、子ども一人ひとりの個別支援計画に基づいて支援が行われているが、さらに理念に基づいたものとなっているかの確認や、具体的な療育及び支援技術の向上に向けたさらなる取り組みが期待される。